



ほりかね道

狭山市立堀兼中学校便り
令和5年度4月号
発行者 和田 雅士

祝入学、進級！ 生徒の生气あふれる学校を目指して！

赤坂の森の木々も若芽をほころばせ、若鳥が元気にさえずり、身近なところで力強い生命の息吹を感じる季節となりました。本日は、お子さまのご入学、ご進級、誠におめでとうございます。

「人はみな なにかにはげみ 初桜」

この俳句は、福島県出身の俳人で深見けん二さん(1922-2021)の俳句です。桜の花は人々の心を高揚させ、新しい一年のスタートに前向きな気持ちを抱かせ、未来への希望を持たせてくれるといった解釈ができる句です。人は、子どもも大人も誰でも、希望を持って前に進みたいと強く感じる、まさに今の季節にふさわしい俳句です。堀中の生徒も入学式、一学期始業式の今日は、一年で1番、そんな前向きな気持ちを強く感じる日かもしれません。

生徒の前向きな気持ちのエネルギーは、大人をも元気にしてくれる力があります。新しい出会い、新しいクラスの発表時の子どもたちの素直な反応と喜びから大人も元気をもらい、気持ちが前向きになります。

堀中の生徒の今日の前向きな気持ちと、そこから生まれるエネルギーを生かし、生徒の強みが生きる教育に努めてまいります。そして、生徒の生气あふれる学校づくりを進めたいと思っていますので、生徒の周りにいる教職員、保護者、地域は精神的に「成熟した大人」として子どもと向き合うことができるよう引き続きのご理解とご支援をお願いするとともに、より一層の連携を図れればと願っております。よろしくお願いいたします。

令和5年度学校経営方針
「共に学び、共に伸びる学校」
めざす生徒像
「共に学び、共に伸びる生徒」



令和5年度の重点（目指す学校の具体的イメージ）

- 1 居場所があり、心豊かな学校
- 2 深い学びに向かう学校
- 3 正義が通る学校
- 4 指導力のある教師のいる学校
- 5 安全で美しく潤いのある学校



4月28日(金) 堀兼中の開校記念日（*授業日です） 今年で開校77年目です！

◆「校章の由来」について

昭和24年(開校3年目)に制定されました。校庭にそびえる「くすのき」(現在の堀兼小)をモチーフにその葉を正三角形の安定した形に配置し、その上に「堀兼」の地名の起源となった堀兼の井の形をのせて堀中を表したそうです。くすの木は常緑樹なので、「いつも若々しく、そして郷土を大切にする人に育って欲しい」という願いが込められています。

